

**高砂市障害者計画・第6期高砂市障害福祉計画兼
第2期障害児福祉計画策定に向けたアンケート
調査結果報告書
【関係団体へのアンケート】**

**令和2年10月
高砂市**

目次

I	調査概要	1
1	調査の目的	1
2	調査の方法	1
3	結果の見方	1
II	調査結果	2
1	関係団体の概要について	2
1-1	回答団体一覧	2
1-2	団体の活動を継続・発展させる上での課題や必要な支援	2
2	高砂市の障害者計画における各分野について	4
2-1	療育、保健・医療、教育の充実	4
2-2	雇用・就労の支援	6
2-3	生活環境の整備	7
2-4	福祉サービスの充実	9
2-5	総合的な推進	11
3	団体の今後について	13
4	障がいのある人の悩みや今後の支援について	15

I 調査概要

1 調査の目的

「高砂市障害者計画」及び「第6期高砂市障害福祉計画兼第2期障害児福祉計画」の策定に向け、障がいのある人に関する団体の活動状況や、高砂市における障がいのある人の実情を把握することを目的に調査を行いました。

2 調査の方法

種別	関係団体へのアンケート
調査対象	高砂市内の障がい者団体
調査地域	高砂市全域
調査方法	郵送配布・回収(一部ヒアリング)
調査期間	令和2年7月31日～8月17日
配布数	18件
回収数	15件
回収率	83.3%

3 結果の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

II 調査結果

1 関係団体の概要について

1-1 回答団体一覧

区分		団体名
障がい者団体	身体障がい	NPO法人兵庫県腎友会東播ブロック
		高砂市視覚障害者福祉協会
		高砂市身障者福祉協会
		東播地区人工呼吸器をつけた子の親の会
		高砂市肢体不自由児者親の会
		高砂ろうあ協会
	知的障がい	兵庫県自閉症協会高砂ブロック
知的障がい	高砂市手をつなぐ育成会	
精神障がい	あしたば家族会	
ボランティア団体	朗読	朗読ボランティアグループむつみ会
	精神福祉	精神保健福祉ボランティアグループありんこの会
	点訳	高砂六星会
	要約筆記	ちびだんぼ
関係団体		加古川市立加古川養護学校
		兵庫県立東はりま特別支援学校

1-2 団体の活動を継続・発展させる上での課題や必要な支援

【課題点】

人材不足・高齢化
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の為、若い方が少ない ・人材の確保、活動出来る人を増やしたい ・最近保護者の年齢が高くなり、若い人の参加がなくなってきた ・新会員が増えない、親が高齢等の理由で退会も多い ・外出や旅行等をするためには家族の力だけでは難しいことがあり、気管内吸引や胃ろうからの注入等、医療的ケアに関わるヘルパーさんや看護師さんが必要になるのでそれらの人材確保がなかなか難しい ・学齢期や学校卒業後の入会者がいないため、会員数が減少し、高齢化している ・会員メンバーの高齢化、会用パソコン不足 ・精神保健福祉ボランティアグループ、ボランティアになる方が少ない(敷居が高いと思われる) ・要約筆記者養成講座の実施はできているが4～5人が受けるだけ受けて残ってもらえない、毎年実施するがほとんど残らない。啓発もかねて講座をしたが、なかなかそれとはつながらない。84時間の講座を受けてやっと試験受験資格が得られ、その後関門が高いので、なかなか要約筆記者にはつなってもらえない ・障がいの重度化、特に医療的ケア児の割合が年々増加しており、その中でも、人工呼吸器をつけている子が近年顕著に増加しているが、それに対応した看護師の確保が難しい ・教科を学習している子や自立歩行ができる子、中途障がいでも途中から他校や他地域よりの転入生等が増え、障がいの状況はより多様化してきているが、それに対する教員の専門性の確保が難しい

- ・軽度の知的障がい児が増えており、小・中・高の入学者数が増えているので、地域の受け入れを増やしてほしい
- ・軽度でも感情コントロールが難しく、小学校中学校では対応が難しいが知能は高く、知的の特別支援学校でよいのかと感じる。本学校は重度のお子さんがメインとなり、軽度のお子さんは物足りなさを感じてしまうのではないか
- ・地域の中で特別支援学級も通級などで人数が足りていないのではないかと、地域の支援学級や通級指導の担当者が増え、充実されればこちらの学校としては継続しやすい

緊急時の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・災害緊急時に対する危惧(災害・緊急時に患者が自力で避難行動をすることは困難と予想される) ・高齢患者や要介護者に対する透析治療環境及び住居や移動手段の確保

その他
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、補助金で「勉強会」「研修会」を実施しているが、今後新しい色々な事業を企画して実施したいと思っており、そのためには現在の補助金では事業資金不足になっている ・役員会メンバーは、PCのエクセルやワードについて未熟な所があり、総会の資料作成をするのに大変で、エクセル・ワードを学べる機会があったとしても見える情報がなく、なかなか進めないとの事もあるので、ろうあ者対象に初心者向けのエクセル・ワードの教室みたいな機会があれば役員会の活動上発展につながるのではないかとと思う ・支援制度が充実し過ぎているため、親と子の向き合う時間が減り、困りごとの実感がなく、他人任せになりがちになっている ・日常生活において、他者への依存度が減少している ・ほっとスペース「キートス」の活動をいろいろな機会を通して広く知って欲しい

【必要な支援】

講習・講座の開催
<ul style="list-style-type: none"> ・吸引のできるヘルパーは、現状ではほとんどおらず、もっと増やしてほしい ・実務者研修等をもっと増やしてほしい ・高砂市内の民間側に、合理的配慮を承知した上で、ろうあ者対象の講座を開いてほしい(年1～2回) ・定期的に専門職の方達と交流や研修をし、ボランティア活動の向上に役立てたい

宣伝活動
<ul style="list-style-type: none"> ・会の存在や会の必要性を行政情報の中で宣伝(アピール)して欲しい ・いかに育英会が必要かを若い保護者の方に知ってもらえるよう広めていく方法

補助金
<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の増額 ・柔軟な対応での補助金

その他
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の関係で若い人への情報が少なく、進みにくい ・「キートス」開催時に、市の担当の方に来て頂きアドバイス等をお願いしたい ・可能であれば、加古川市立ではあるが高砂市からも看護師さんや教員確保のための協力体制の構築ができればと思う ・パソコン点訳が主になっているので、中古パソコン等の提供もしくは紹介

2 高砂市の障害者計画における各分野について

2-1 療育、保健・医療、教育の充実

障がいのある人（子ども）の療育、保健・医療、教育についてお聞かせください。また、その現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で貴団体ができることがあれば、教えてください。

【現状や課題】

施設の不足・医療機関の対応

- ・透析施設以外の診察を受ける時の交通手段や透析患者が入所できる施設がない
- ・現在の高砂市には全てが不足している
- ・重度の障がい児者の療育の場も、医療も、教育の場もなくすべて他市にいかなくてはならず、高砂市民病院でも、重度障がい児者を診てもらえるようにしてもらいたい
- ・往診してくれる医院もほとんどない
- ・在宅医療を続ける為には、往診してくれるホームドクターが必要
- ・高砂市民病院の受付、各診療科に、簡単な会話レベルの手話ができる人を配置して欲しい、今までは呼びかけに気付かなかつたり、不安な気持ちが続いて大変で疲れてしまつたり、一言しか言えないまま終わってしまう事があつた為

システムの構築

- ・精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムの構築
- ・日常生活の中で、精神的に悩み、苦しんでいたり、いつもと違う言動や行動に気が付いた時、重病になる前に早い段階で対処（相談や治療）ができる様に、フローチャートの様な一目でわかる支援体制が出来ればと考える
- ・学校の検診で医師の判断があつたとしても、子供が受診することが難しく、そのまま悪化する場合がある。保護者が保健センターへ連れていけないこともあり、家庭内で養育の困難さを抱えていることが多い。
- ・多くの人が療育センターにかかつており、加古川の療育センターに行く人が多く、高砂には児童センターがあるが、年齢が上がっても行くことができる療育センターがあればよいと思う。医者も多くのケースを見ており、様々なところから来ている。単に薬を出しているだけでなく、セラピーを受けられたり、ペアレントトレーニング、PCRT（親子相互交流）等、子供だけでなく保護者の方の働きかけに具体的な意見をいただける相談機関があればよいと感じている。学校には教育安心懇談があるが、高砂から頻りに訪れる保護者がおり、癇癪を起すなどの相談が多く、それに特化した相談・研修ができる場所があれば、解決することもあると感じるが、現状ではアドバイスを先生がするのみとなっている

その他

- ・現状は100%ではないと思うが、十分に施策は実行されていると考える
- ・現状はほぼ全般的に保護者まかせになっている
- ・障がいにより、それぞれの個別の成長、発達があり、常に発展途上であり、終了はないが、一般の年齢による一律の制限や抑制をされ途中支援は困る
- ・どの施設どんな環境下であっても同様の支援が必要
- ・療育、保健、医療、教育の連携と継続が大切だと思う
- ・本校の子ども達の教育を保障するためには、医療スタッフの充実を図ることが必要不可欠であるが、現状では教育の保証が図れない状況になりつつある

・難聴者協会で登録している人はわずかだが、病院によっては難聴者さんに丁寧に接してくれるが、耳の聞こえない人は自分の声も聞こえないので声が大きくなり、また書く手間もあることから家庭内で孤立していたりもし、待合の間に大きい声で話してしまい怒られるなど、周りの理解が得られない。本人に謝らせることが必要だという理屈はわかるが、それは本人の話すことを抑制することになるのであまり肯定できない、難聴者は外から見てもわからない

【あれば良いと思う支援・団体ができること】

施設の設定

・療育、保健、医療、ショートステイ等が全てトータルで受けられるようなセンターを作っていただきたい
・医療ケアのある人も受け入れ可能な近い場所のショートステイ施設

その他

・個人情報の関係があると思うが、子供が発達障がいを持ち悩んでいる保護者の方があれば紹介して欲しい
・保険、医療、福祉関係者による協議の場の設置
・病院や土日の活動を応援してくれる人材や広報
・タクシー券を増やし、複数枚使用可能に(現在は 52 枚/年)
・透析患者の知識向上(学習会の開催)
・各課に1~2人が簡単な会話ができる手話を学べる機会を与えられるよう働かせていただきたいと思う(当ろう協が協力したい)
・話を聞くこと(お茶を飲む)は出来る
・可能であれば、加古川市立ではあるが高砂市からも看護師さんや教員確保のための何らか協力体制の構築ができればと思う
・要望があれば、視覚障がい児童への支援
・加古川の歯科が受けやすいので、歯科だけでなくほかの分野でもそのような対応してほしい
・どこの病院に行けば必要な医療が受けられるか情報を発信してほしい
・福祉サービスの支給時間、日数等の見直し

2-2 雇用・就労の支援

障がいのある人（子ども）の雇用・就労についてお聞かせください。また、その現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で貴団体ができることがあれば、教えてください。

【現状や課題】

高齢化

- ・若年透析患者の多くは就労しているが、高齢者については難しい
- ・高齢化の為、マッサージ、按摩、指圧の仕事をしている人が少なくなっている

その他

- ・20日働いても1万か2万という現状でもっと少ない収入の方も多数いらっしゃる
- ・生活は、親の援助、支援なしでは厳しい
- ・自立する為には仕事をして生活出来なければ収入をもっと増やす必要がある
- ・会員全員が雇用や就労ができる状態ではないので分からない
- ・福祉施設から一般就労への移行だが、福祉施設の就労さえ出来ない障がい者が多数おり、その場合はどうするのか
- ・現在育英会（高砂）として雇用、就労を考えている保護者はいない
- ・会員の子どもに就労のできる人がほとんどいないため、情報がほとんどなく、就労を考えている人がいても支援が出来ない
- ・障がいのある子ども達の通う小中学校の支援学級や発達障がいのある子どもたちが在籍している通常学級の先生方は、障がいのある子がどんな進路をとることができるのかをあまり知らないという現状がある
- ・特に近年は法律が変わり、実態は日々変化してきている
- ・周りの理解とサポートによってずっと働き続けられている、普通に働いているという話を聞いている
- ・企業のニーズと生徒や保護者が希望する職種や条件の仕事が全く一致しておらず、動物と関わりたいたいといってもできない。加古川のはぐるまのような就労ができるような支援施設が高砂にもあればよい。高等部の卒業度、強度行動障がいの人が行く施設が限られてくるので、高砂市のあかりのような場所がもっとたくさんあればよいと感じている。実際には仕事先がないのに夢だけ見させるのはどうかと思う。進路を相談した方の話では、そもそも働き先がなく、あったとしても短時間ということである

【あれば良いと思う支援・団体ができること】

- ・福祉施設の就労ができる支援
- ・もし就労等の希望があるなら、実習等を支援してくれる団体もしくはボランティアグループが必要なので、育英会として手伝えることはないと思う
- ・遠い地域への就労が難しいので市内での企業等の情報を行政が発信してくれたらよいと思う
- ・就労支援B型、A型の後に就労を積極的に支援し自立につながるようにしていく
- ・支援学級やコーディネーターを担当している先生方や相談支援専門員を対象とし、特別支援学校の進路担当やコーディネーターの先生を講師として、進路に関する研修を実施してみるのもよいと思う

2-3 生活環境の整備

住居や公共施設、道路、公共交通機関等のバリアフリー化の推進や移動手段の確保、障がいのある人の災害・緊急時の支援についてお聞かせください。また、その現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で貴団体ができることがあれば、教えてください。

【現状や課題】

移動手段

- ・駅にはエレベーターがつく等駅のバリアフリー化は充実してきていると思う
- ・駅前に車椅子の人が駐車できるスペースがない
- ・道路も歩道は凸凹があるため、車椅子では歩きにくい
- ・公共施設にはエレベーターがあるが、ストレッチャータイプの車椅子ではのることができないのもっと広いエレベーターが必要
- ・段差、階段も多い
- ・障がい者用トイレで大人用のベッドが設置されているトイレが少ない
- ・通路の段差や勾配など妨げになる物を撤去して安全を確保し、福祉タクシーを気軽に利用できるようにしてほしい
- ・身体障がいのある方にとって移動が一番の課題である
- ・現在は保護者(両親とも)が運転できることが前提での支援体制となっている
- ・介護タクシーは初乗りが3,500円であり、タクシーチケットや手帳の割引を利用しても現実的ではない
- ・無人駅でインターフォンを鳴らしても聞いてもらえない

災害時

- ・福祉避難所に行っても透析が出来るわけではないので、速やかに透析可能地域に避難を考えてほしい、避難所においては食事の問題で透析患者は難しい
- ・避難場所に行く手段や情報が少ない
- ・障がいのある人の災害や緊急時の支援に関して支援計画が構築されていない
- ・自治会との交流がないので災害時連絡がない
- ・災害時に福祉避難所までの移動手段がない
- ・災害時は医療的ケアのある方にとって停電時の電源確保が何より一番不安なことで、各個人で何らかの対策を考えてはいるが、個人の範囲では対応に限界があり、命を守ることができない現状である
- ・社協で大きな部屋にループをつけており、ついていない部屋にループをつけて回らないとならない
- ・災害等の時にどうすればよいかという研修はよくしている
- ・活動上、視覚障がい者の方とお話する事が多いが、いろいろな災害が多発する昨今避難所についての心配をよく聞き、特に障がい者の方へのわかりやすい細かな説明や案内の充実を望み、また自分達も積極的に知っておかなければと思う
- ・災害時は場所を区切ったり、部屋を別にしなければと思います、また専門職の方やボランティアの支援も必要と考える
- ・火災や地震に備えた避難訓練を実施しており、災害の緊急時に子供に引き渡しカードを渡すようにしているが、コロナの状況から密を避けての避難をするのは難しく、特に接触が必要となる車椅子の子どもをエレベーターを使わずに密を避けて避難や集合させるのが難しいので、工夫や実践例があれば知りたい
- ・アスパ(イオン高砂店)を多く利用されているろうあ者がおり、滞在時間は大体1~3時間だそうだが、もしもの緊急時や災害時に音声による放送では分からず、巻き込まれる恐れがある為立ち往生になってしまう

その他

- ・現状は保護者まかせになっている

【あれば良いと思う支援・団体ができること】

地域との連携・情報の発信、提供

- ・自治会と交流があれば良いと思う
- ・災害や緊急時に避難できる医療機関等の施設を決めておいてほしい
- ・災害時の情報を発信してほしい
- ・障がい者が緊急時に行く場所がなく、自宅にとどまる人がほとんどだと思う
- ・育英会には育英寮という宿泊訓練をする施設があり、災害の時にはその場所を開放したいと思うが、今まで、そういう時がなかった
- ・情報の提供(透析施設の情報)
- ・災害時等に避難所まで行けずに自宅にいる障がい者も多いと思うので救援物資が届くようなシステムがあればよい
- ・専門の講師を招いての研修会

タクシーチケットについて

- ・タクシー券の1回の利用枚数を増やしてほしい
- ・タクシーチケットの年間配布枚数ならびに1回に使える枚数を重心児者に対しては枚数制限をなしにしていただけると助かると思われる

その他

- ・中途失明者への点字、点字用具等の学習支援や紹介、パソコン点訳等の利用支援、同行支援
- ・アスパ(イオン高砂店)の各フロアの天井に緊急災害用のランプを取り付けて欲しい、ろうあ者だけでなく、耳が遠くなった高齢者や難聴者の命を守る為に必要
- ・個別支援計画の作成
- ・駅前に車椅子用の駐車スペースを作してほしい、雨の日は乗り降りしにくい
- ・公共施設のエレベーターを広くしてほしい
- ・家でも何日か過ごせる為のバッテリー(人工呼吸器、吸引器用)の支給等をしてほしい
- ・予備バッテリーやポータブル電源を日常生活用具の項目に入れ、購入の補助や近隣の病院や高齢者施設に電源だけを借りられるようになりたすればと思う

2-4 福祉サービスの充実

障がいのある人とその家族の地域生活を支援するための福祉サービスのあり方、障がいのある人の福祉サービスに対するニーズの動向等についてお聞かせください。また、その現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で貴団体ができることがあれば、教えてください。

【現状や課題】

保護者の高齢化

- ・保護者の高齢化でいざという時にすぐにもてらえる場所がなく、あってもいつも満杯か遠い
- ・精神障がい者を家族に抱えている会員のほとんどが高齢化しており、精神障がい者の日常生活の世話をするのが困難になってきているので、「親なき後の障がい者の将来」も踏まえ、当事者および保護者の悩みが課題
- ・私達会の親は子供が住み慣れた地域で親が介護できなくなった後でも何も変わらない生活をしてくれる事が一番の希望なので、そういう事ができる福祉サービスの充実を望む
- ・親の高齢化が進み、親も本人も不安であり、親の元気なうちに、生活していく上での様々な制度や困った時にはどこへ行けばよいのか、いざとなった時のSOSをどこに出せばよいのかを知りたい

その他

- ・各家庭環境が違うので福祉サービスを受ける人と受けない人がいる
- ・常時障がいのある子どもの介護が必要な為、子どもから離れることができず、親の自由時間や休憩時間がなかなか持てない
- ・親無しで子どもが自由に出かけることができない
- ・ショートステイも予約がなかなかとりにくい
- ・葬式等が急にできた場合に預けるところがない
- ・重度の発達障がい者についてはそれなりの制度や支援について充実感があるが、軽度の方々についてはまだまだ充実していないと考える
- ・現在、放課後デイサービスが充実しており、障がいのある子どもの保護者も働きやすくなっている
- ・学校卒業後の就労継続支援B型や生活介護等の事業所に通うとなると、帰宅時間が早くなり、一人で留守番もできない場合は保護者は子どもの学校卒業と同時に仕事との調整に悩まなければならない現状がある
- ・歩道の狭さや歩道の凸凹
- ・要約筆記を知らない人が多いので、家族が代行していると思うがもっとよく知ってもらい、よく活用してもらいたい、情報を得てもらいたい
- ・障害手帳受け取りの際にパンフレットを渡すが、筆談も活用できることからあまり要約筆記を使われない
- ・マスクで声がこもってわかりにくいという障がい者さんもいる
- ・地域の人に精神障がい者のことをもっと知ってもらう

【あれば良いと思う支援・団体ができること】

入所施設・医療機関の充実

- ・ケアホーム、グループホーム、短期入所のできる入所施設等の障がい者が安心して暮らせる「住まいの場」のハード面の支援
- ・いざという時にすぐにみてもらえるショートステイや短期入所等があればよい
- ・医療的ケアのできる支援者が必要
- ・緊急時に一時的に預かってくれる場所が必要(医療機関)
- ・日中一時支援事業所が増えてくると課題も解決しやすくなると考えられる
- ・日中一時支援に重度加算等の加算措置があれば事業所も開設しやすくなる
- ・生活介護、重度訪問介護、短期入所等の十分な支給日数

その他

- ・精神科の訪問看護師さん、精神障がい者に対応できるヘルパーさんの拡充をしてほしい
- ・「障がい者の110番」の様な拠点が地域毎(例えば公民館ごと)があればよい
- ・身障協としては、相談を受けたら福祉課や社協に連絡し解決してもらっている
- ・軽度の発達障がいの保護者を紹介していただき、我々の仲間として活動をしていきたい
- ・触れるハザードマップ、同行支援、ガイドブック等の点訳
- ・登校の支援、付き添いが期間限定でもあればよい。強度行動障がいの人等は、母親一人で連れていくのは難しいことがある。保育所等訪問支援は助かるが、ある一定期間のみしてくれれば、ということが少しずつある。移動支援(通勤・通学)の枠をとっている事例もある

2-5 総合的な推進

障がいに関する理解の促進や障がいのある人へのボランティア活動の推進、障がいのある人の地域社会への参加、情報提供・相談支援についてお聞かせください。また、その現状や課題を踏まえて、どのような支援があれば良いと思いますか。その中で貴団体ができることがあれば、教えてください。

【現状や課題】

高齢化・人材不足

- ・会員の高齢化により、参加ができなくなっている
- ・精神保健福祉ボランティアグループが少ない現状
- ・ボランティア活動をしている人が高齢化
- ・ボランティアの方が来てくださっても長続きしないが、継続して来て頂く為にどう関わっていけばよいか分からない
- ・地域にもできるだけ出ていくようにしているが、付き添いの問題等が課題
- ・この地域ではボランティア活動はあまり活発ではないように思われ、活発な地域とは差が大きい
- ・相談員一人の担当の人数が多く、一人ひとりに十分な相談支援ができていないのではないかとと思う

その他

- ・腎友会として1回/年、CKDセミナーを開催し、慢性腎臓病の啓発と体験談を行っている
- ・社協にガイドヘルパーを依頼するが、ここはだめ、それをしたらだめ、という制限をなくしてほしい
- ・基本的人権の尊重
- ・視覚障がい者は誰かと一緒にないと出掛けられないということをもっと理解してほしい
- ・自由に人間らしく生活できることも考えてほしい
- ・発達障がい児者の保護者から仲間が欲しいとの要望や要求が少ない
- ・現在、各障がい者は計画相談支援を受けているが、はたして本人の為にになっているのかどうか疑問視している保護者が増えている
- ・毎回マンネリ化した相談支援になっていないか、当事者はただ受けているだけで何の進展もなく、これでは計画相談支援を受けても余り意味がないのではないかと
- ・現状では障がい者に対する理解は低いと思う
- ・小学校の時から障がい者に関わる教育をして欲しい
- ・今までろうあ高齢者一人が利用した事例を教訓として生かし、高砂市内のデイサービスの提供する内容に、ろうあ高齢者対象に簡単な会話ができるレベルの手話ができる職員、見える情報等、合理的配慮が行き届くものを整えるよう促進して頂きたい
- ・一般の人には筆談を積極的にしてあげてほしい(必要最低限のことで)、筆記用具は常に当事者の人は持っており、字が下手と嫌がる人が多く困るが、今は書くということが多くわかりやすい形にしてあげてほしい
- ・マーク(ヘルプマーク)はあってもできるだけ知られたくないと、つけない、嫌がる人もいたり、つけていることで不利益があることもあるので、つけられる環境(助けてもらえる)にならないといけない
- ・クラクションを鳴らしても反応できないなど、誤解を受けやすい立場である
- ・ボランティアの楽しさ、充実感、社会参加をもっと訴える努力と工夫が必要
- ・代読や代筆がだめだと社協にいわれることもある

【あれば良いと思う支援・団体ができること】

啓蒙・啓発活動

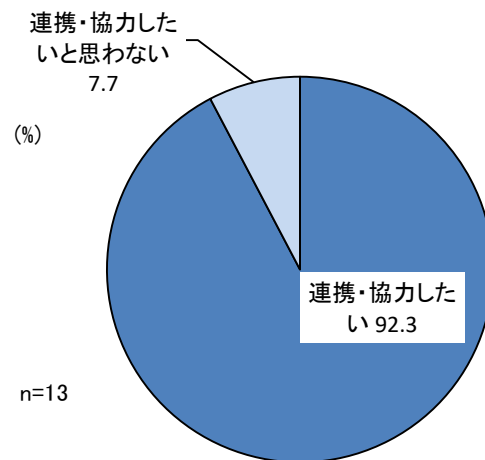
- ・小学校、中学校へ話をしに行く事はできると思う
- ・行政も一緒になって団体が広く活動を通し発信していくこと
- ・兵庫県腎友会として、行政が行うイベント等への参加と啓発活動
- ・市の方でも若い人や元気な人に入会できる様によびかけてほしい
- ・様々な障がいに関して理解をしていただく為の市民講演会や研修会等を行う
- ・障がいの特徴や在宅医療とはどのようなことか等のお話をさせていただく事は会としてできると思う

その他

- ・計画相談支援の内容の洗い直し
- ・手話ができるボランティアとのコミュニケーションにより心のゆとりが生まれて人生が豊かになるように、できる範囲内で支援していきたい
- ・地域に居場所(デイケア)が例えば、“100歳体操”グループのように、数多く出来る定期的なサポートを受け続けていく
- ・障がいのある人が行うボランティア活動のサポートをする
- ・周りの理解、お手伝い、筆談、手を差し伸べるなどしてもらえること
- ・隠したい気持ちもわかるが、普通の人には知る機会がまずないので、災害の時でもいつでも、隣近所の人に知ってもらえるのはとても大事なことである

3 団体の今後について

他の団体等と連携・協力したいと思いますか。また、連携・協力することでできることや、行いたいことをご記入ください。



【連携・協力したい団体、できること・行いたいこと】

回答団体区分	連携・協力したい団体	連携・協力してできること・行いたいこと
障がい者団体 (高砂市身障者福祉協会)	・今でもろうあ協会、難聴協会と協力しあっている	無回答
障がい者団体 (東播地区人工呼吸器をつけた子の親の会)	・肢体不自由児者親の会	・各機関への要請行動等
障がい者団体 (兵庫県自閉症協会高砂ブロック)	・他の障がい者団体	・子どもたちが少しでも安心して生活できる地域にしていきたい
障がい者団体 (あしたば家族会)	・「つなぐ手と手」の市民団体	・障がい者団体だけでは実現が困難なので連携し協力して啓発活動を実施する
障がい者団体 (高砂市手をつなぐ育成会)	・他の障がい者団体と協力している	・毎年市民に向けていろいろ催しをしている ・障がい者本人の体験談や知的障がい疑似体験等
障がい者団体 (高砂市肢体不自由児者親の会)	・いろいろな障がいを持つ親が作る団体	・情報交換等をし、障がいを持った子供達がこの地域で幸せに暮らせるような市にすること
ボランティア団体 (精神保健福祉ボランティアグループありんこの会)	・ボランティアグループとの交流会	・理解を深めていくためには、交流が大切だと思う
ボランティア団体 (高砂六星会)	・社会福祉協議会	無回答

回答団体区分	連携・協力したい団体	連携・協力してできること・行いたいこと
ボランティア団体 (ちびだんぼ)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在要約筆記の地域ブックの交流会のようなものを実施 ・難聴協会、ろうあ協会、手話 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動
ボランティア団体 (朗読ボランティアグループむつみ会)	無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的には分からないが、ボランティアグループの連絡会等で話し合う機会があればと思う
関係団体 (加古川市立加古川養護学校)	無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者、医療的ケア児者に関すること ・肢体不自由児者だけでなく、知的・発達・精神障がいのある方の進学や就労等について

4 障がいのある人の悩みや今後の支援について

貴団体に所属している障がいのある人達が、日常生活で一番困っていることをお聞かせください
また、行政（市）に対するご要望等あれば、ご記入ください。

【団体に所属している障がいのある人達が、日常生活で一番困っていること】

施設の不足

- ・一番困ることは、家に病人が出たり、介護者が急な病気になったり、家でお葬式を出すことになったりした時(緊急時)に、すぐに預かってもらえるところがなく、また親が必死になってあちこちに電話して段取りをつけないといけないこと
- ・親が元気なうちは親が運転する車で病院また余暇活動等移動できるが、親が出来なくなった時に通院やどこかへ出かけられるような移動の支援、またショートステイの充実
- ・特に私達の団体は医療的ケアの子供が多く、医療的ケアを受け入れてくれる施設が近くになく予約もなかなかとれない

高齢化

- ・高齢化による家族の支援不足や孤立化
- ・毎回アンケートに記載しているが、障がい者および保護者が一番困っていること不安に思っていることは「80・50」問題であり、(4)にも記載したがお互いに高齢化が進み将来的に生活が出来るのかどうかということ

家族の問題

- ・重度の行動障がいを持つ方々との生活に保護者が疲弊してきている、こだわりの強さ等から生活に支障をきたしている場合がある
- ・親から自立したいのに出来ない、仕事になかなか就けない、薬を飲んでるので徒歩か自転車が移動手段であり移動手段に困る

その他

- ・透析生活の過ごし方(食事・運動等)
- ・今新型コロナウイルスのため自由に外に出ていけず困っており、特に知的や自閉症の人たちはコロナ禍であっても自分のすることは決まっているので大変である
- ・郵便物を配達されても誰からかが分からず、団地であればポストまで行けず、気軽に出かける様になりたい
- ・家族がなく、1人で生活している人に充実した支援をお願いしたい
- ・マスクの聞き取りづらさ
- ・問題はないが、障がい者さんは派遣に少し遠慮している

【行政（市）に対するご要望等】

窓口、相談先について

- ・上記のような緊急時は、相談員に相談すれば各施設等に問い合わせをして段取りをしていただきたい
- ・たとえショートステイ先が見つかって、遠方まで送っていけない時は親の代わりに送ってくれる人が必要
- ・各機関に要請する時の橋渡しをしてほしい、私達が直接行っても会ってもらえなかったり、どこの窓口に行けばよいのか分からないことがある
- ・社協の方々にいつもお世話になっているが、どなたも担当以外の時にも本当に親切に対応してくださり、助かっている
- ・慣れるまでは業務の内容が分からず、色々な申請等にも少し迷った
- ・窓口を1本化することは難しいと思うが、もう少しそれぞれの部署の内容が分かればと思った
- ・育英会としては育成寮をもっと活用したいと思うが、なにからどう手を付けていけばよいのかわからない
- ・建物はあるが、人手とお金の問題でどこへ相談すれば良いか
- ・地域の人たちに理解してもらおう為にはどうすればよいのか、今はコロナのため無理なのか、育成寮については以前、グループホームにしようとして地域に大反対されその後動いていない

施設の設定

- ・「親なき後」に一人で生活出来るように、障がい者が安心して暮らせる「住まいの場」を確保するため、ケアホーム・グループホーム・短期入所施設のできる入所施設等のハード面の支援が必要
- ・移動の支援の充実
- ・医療的ケアの人も利用できるショートステイの施設が近くに欲しい
- ・市民病院に神経内科を開設してほしい、加古川中央市民病院の内科では診てもらえない
- ・特別支援学校卒業後の行き先を作してほしい
- ・高砂市には短期入所等が少なくなかなか利用できない

その他

- ・新型コロナが発生した後、当ろうあ協会の会員の状況や情報提供等は行き届いていると思うが、非会員の立場を考えるとこのままでは見放してはいけなと痛感させられた
- ・当事者の私たちの命を見守るためには何とかしなければならないと思うので、非会員の皆さんへの呼びかけ推進に働かせていただきたい
- ・市でピアサポーターの養成講座を実施して欲しい
- ・ピアサポーターが活躍し広まるには専門家の助言が不可欠であり、専門職のサポーター支援があればピアサポーターさんは、この仕事と活動を今以上に頑張れると思う
- ・地域には、引きこもりの方もいるので、健康保険福祉事務所の支所(出張所)等相談できる場所は開設できないか、もちろん引きこもりの方以外、精神保健に関して気軽に相談できる場所が近くにあればと考える(相談するところを意外と知らない方が多い)
- ・基幹相談センターがあるが、地域の身近なところや市役所にもあれば良い
- ・親は介護施設、子は障がい施設、同じ建物で2世帯住宅のように行ったり来たりできる施設に暮らせるのが望み
- ・腎機能障がい3・4級に1級並みの助成を考えてほしい
- ・安価で入所できる施設を考えてほしい
- ・本アンケートで回答したこと
- ・色々と情報を教えてほしい
- ・3人だけで少ない、存続のために人手が必要であり、若い人は働くことが多くなかなか難しいので、定年後にでも可能だが、早く書く必要があるので少しでも若い時にしてもらえるとよく、男手があればなおよい
- ・手話はたくさん予算があるようなので、助け合えないか
- ・高砂市ではボランティア養成講座をしてくれているが、ほかの市町でないところは どうやって人を集めているのか、ボランティア養成講座は第一歩として重要
- ・難聴者がもっと活動してもらえたらよいが、どこにいるのかさえ分からない
- ・日常生活用具について、耐用年数内に壊れてしまった場合でも給付をしてもらいたい
- ・災害時ためのバッテリーや吸引器も給付対象にしてほしい
- ・精神障がい者保健福祉手帳2級迄、有料道路割引及びETC割引の該当、精神障がい者保健福祉手帳2級まで、福祉タクシー券交付及びタクシー運賃割引制度の該当、他の障がい者と比較して精神障がい者福祉は非常に遅れており差別を感じ、公平な福祉サービスの構築を要望する
- ・障がい者団体に行政がヒアリング調査のようなものを年に1回でもいいので行って欲しい

高砂市障害者計画・第6期高砂市障害福祉計画兼
第2期障害児福祉計画策定に向けたアンケート
調査結果報告書
【関係団体へのアンケート】

令和2年10月 発行

発行／高砂市
編集／高砂市 福祉部 地域福祉室 障がい・地域福祉課
〒676-8501 兵庫県高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号
TEL : 079-443-9027 FAX : 079-443-3144